令和５年度研究推進計画

学校名　東広島市立川上小学校
学校長名　　小　川　　寛

１　研究主題，研究内容・方法等について

（１）　研究主題

かかわり合いながら学びを深める児童を育成する算数科の授業改善
～ユニバーサルデザインの授業を通して～

（２）　主題設定の理由

昨年度は，学級経営（学級集団づくり）を基礎として，算数科においてユニバーサルデザイン（以下 UD）の授業づくりを実践し，児童がかかわり合いながら学びを深めていく授業を研究した。これまで研究してきた UD の視点を大切にしながら研究を推進するとともに，算数科の教科特性から，新たに「構築化」（授業や単元の構成や活動を工夫する，前後の学びをつなげる）の視点を入れて研究の推進を図った。

＜授業 UD の４つの視点＞

① 焦点化（単元で付けたい力をしぼる，授業でやりたいことをしぼる）
② 共有化（友達とかかわりながら学びを深める）
③ 視覚化（視覚的にわかりやすい教材，板書の工夫）
④ 構築化（授業や単元の構成や活動の工夫，前後の学びをつなげる）

また，UD の授業を研究するにあたって，「人的環境 UD」，「教育環境 UD」，「授業 UD」の３つの柱をバランスよく研究した。

しかし，既習内容を十分理解できておらず，本時のねらいに向かって自分の考えをもつことが難しい児童がいた。また，意見を交流することはできても、意見の共通点や相違点からよりよい課題解決の方法や、数理的処理の良さに気付くなど、考えを深めることについては課題が残った。

そこで本年度の研究は，児童のつまずきからスタートする UD の考え方を大切にして，授業 UD の視点の中でも②「共有化」と④「構築化」についてさらに深めていく。そして，「授業 UD」の４つの視点に沿って授業を改善していく中で，児童の学力向上と教師の指導技術の向上をめざしていきたい。

（３）　研究の仮説

算数科においてユニバーサルデザインの４つの視点を取り入れた授業改善を行うことによって，かかわり合いを通して学びを深めることができるであろう。

（４）　研究内容

○学年部を低，中，高学年ブロックに分け，ブロックごとに教材研究，指導案の提案・検討を行う。
○模擬授業の実施により，UD を取り入れた授業改善を行う。
○研修内容に応じた研修形態を計画的に配置することで効率の良い研修を行う。
○授業観察を行い，評価カードを通して教員の指導技術を客観的に分析し，改善を図る。
○研修後に教職員アンケートを行い，研修の改善を図る。

（５）　検証の指標

○研究授業の適用問題の正答率が学校全体で 80%以上になるようにする。
○単元末テストで学級平均 80 点以上の児童の数が学校全体で 75%以上になるようにする。
○算数科の学習についての児童生活アンケートで肯定的評価が 80%以上にする。
○授業研究において授業評価の平均を４段階中３段階以上にする。

２　検証計画

（１）単元末テスト〔授業研究対象単元の単元末に実施〕
（２）算数科の学習についての児童生活アンケートの調査〔４月と 10 月年間２回実施〕
（３）各授業研究の際，観察した教職員による評価

３　研修計画

○指導主事を講師として招聘し研修を進める。
○研修部会（学年ブロック）を組織し，全職員が研究にかかわる。
○提案授業による実践的な研究を進める。
○提案授業の指導案検討は各ブロックで行い，模擬授業の視点を明らかにしておく。
○提案授業の模擬授業は全体で行い，提案授業のねらいや手立てを共有しておく。
○単元ごとにどのように授業をしていくかを話し合い，授業改善のための学年部会を月３～４回程度設ける。
○研究の検証や分析をまとめ，研究紀要を作成する。

４月	上旬	授業ＵＤ，教育環境ＵＤ，人的環境ＵＤについての理論研修
	中旬	今年度の研究についての確認
	下旬	算数科の学習についての児童生活アンケートの実施・実態把握
５月	上旬	算数科の授業について理論研修
	中旬	指導案検討①
６月	上旬	模擬授業①
	下旬	全体研①
７月	下旬	指導案検討②
		模擬授業②
９月	上旬	全体研②
１０月	上旬	算数科の学習についての児童生活アンケートの実施・実態把握・分析
	中旬	研究についての検証
１１月	上旬	各ブロックの授業実践の成果と課題を分析・まとめ　研究紀要作成
１２月	上旬	研究の成果と課題を分析・まとめ　研究紀要作成
１月	上旬	標準学力調査
	中旬	研究紀要完成
２月	上旬	本年度のまとめ及び来年度の研究計画の立案